

2021年9月19日 聖餐式説教

本日は、特定20の特祷・旧約聖書・使徒書・福音書を用いて礼拝をささげることになっておりますが、本日は「神の豊かな恵み」について学びを深めることが勧められております。本日は特に使徒書として用いられておりましたヤコブの手紙を中心に神の豊かな恵みについて学びたいと思います。

ねたみや利己心のあるところとヤコブはまず言っています。私たちの生きる社会でねたみのないところ、また利己心のないところはどこにあるのでしょうか。ねたみと利己心がはびこっている社会、これがわたしたちの生きる社会であり、それは秩序が乱れた状態の社会だということです。世界を創られたのは主なる神であります。主は世界をねたみや利己心のあるところとして作られたのではない、こうした混乱の社会は悪魔の働きの特徴であることがまず示されています。世界の悪は、主なる神が人間をつくられた際にあつたのではなく、悪魔の業により、世界に入り込み、そして世界を支配するにいたるほどはびこってしまったのです。

それに対し、上から出た智慧、すなわち天からもたらされた智慧は、純真、すなわちはねたみや敵対心などの隠れた動機が混じっていない、偽善のない恵みをもたらします。悪魔の業はねたみや自分中心に満ちており、そのような社会に争いが止むことはないが、天からもたらされた智慧が世界に満ち溢れるとき、平和の実がもたらされることが示されています。そしてわたしたちキリストにある者に対して、「平和を実現する」者となり、人間の怒りではなく、平和をつくり出そうとして、平和のうちに事を行うことが教えられています。平和こそが天よりの智慧のしるしであることがはっきりと示されているのです。神の豊かな恵みは、平和をもたらすことを私たちは第一に学ぶのです。

次に、交わりの中に戦いや争いを起させる欲のことが語られています。この欲も単に人間の心の問題ではなく、その背後には神に敵対する悪魔の働きがあるということです。そしてこの悪魔の働きが傲慢さを生む。すなわち人間が神になりかわろうとし、自分を中心にすべてを考える、自分の利益のため、自分の欲の満足のため、そのためには人と敵対したり、争ったりする。その原因は何か、何故戦いや争いが起こるのか、それは傲慢さから出る欲望にわたしたちが支配されているからであると言うのです。世の性質は神に敵対するので、神と世を同時に愛することは不可能である。わたしたちは今何を愛して歩んでいこうとするのか、この世の欲望の中に留まるのではなく、主なる神の平和のうちに歩むことが勧められています。

しかし主なる神は、この世に留まろうとする者、主なる神の平和を望みつつもたどり着くことの出来ない者たちを、ただ敵対する者であるとするだけではありません。ここで主なる神はもっと豊かな恵みをもってこうした人々を愛され、神がご自身に敵対していた者に対しても悔い改めの機会を与えておられるのです。主なる神は、高ぶる者が悔い改めてへりくだることを望んでおられ、主なる神の愛を知り、その平和のうちにいることを望ん

でおられることが示されているのです。

神の豊かな恵みとは、平和への導きと共に、悔い改めの機会を与えること、そして傲慢を捨て、へりくだりへと導くのです。

本日の福音書の箇所は、主イエスが弟子たちに、十字架の受難を受けることをお示しになられた箇所でした。3年間にわたる主イエスの伝道生涯の前半では、主イエスのご自身を待ち受けている十字架の受難についてふれたことはありませんでしたが、フィリポカイサリアにおけるペトロのメシア告白以後、主イエスは弟子たちにはっきりと十字架の受難について触れられ、ご自身の覚悟を固められると共に、伝道生涯も新しい局面に入ったのです。

しかし弟子たちは、そのような主イエスの心を受け止めてはいないようで、この言葉を理解することが出来ず、その言葉の意味も怖くて尋ねられなかったのです。そして主イエスと行動を共にしながら、誰が一番えらいかと議論しあっていたのです。主イエスに誰が一番重んじられているか、誰が一番気に入られているか、誰が一番貢献をしたか、誰が一番的確な行動を取っているか、などと話し合いながら、誰が弟子の中で一番偉いかと語り合っていたのでありましょう。おそらくこの議論は和気藹々としたものではなく、先ほどの使徒書にあったような、ねたみと利己心に満ちたものであったでしょう。だから主イエスから何を議論していたのかと尋ねられても、黙っているしかなかったのです。主イエスが十字架への覚悟を固められる中、弟子たちは主イエスの前に傲慢な姿をあらわにし、ねたみと利己心で満ち溢れていたのです。

しかし主イエスはそのような弟子に、単に失格の烙印をおされるのではなく、悔い改めと正しい道への導きを与えられたのです。ここに弟子に対する豊かな恵みが現されています。そしてわたしを受け入れなさい、御心を喜んで行う者となりなさいと言われたのです。実に主イエスはその伝道活動の中で、弟子たちのために祈らなかった日は一日もありませんでした。

本日の旧約聖書に代えて読まれました、旧約聖書続編の知恵の書にも、自分勝手な神を作り出し、わたしたちを無条件に深く愛しておられる主なる神を求めようとも認めようともしない人々に対し、警告の言葉が語られていました。

豊かな恵みとは、このようにこの世のものではない神の平和への導きと、わたしたちが傲慢を捨てて悔い改め、まことのへりくだりを学んでねたみと利己心から離れる道を示すことでした。このように主なる神の恵みとは、よろこびのみでなく、私たち自身が自分の罪と真剣に戦い、勝利をおさめる導きをも含むのです。これはわたしたちにとって大きな取り組みであり、困難が伴いますが、主なる神がこの克服を強く願っていること、そのために罪のうちにあるわたしたちに豊かな恵みを与えてくださっていることを、本日はよく覚えたいものであります。